



2011年度 JARI-RB交流セミナー

複合審査について

統合マネジメントシステムの情報を主体に

(財) 日本自動車研究所 審査登録センター
西名 秀芳

テーマ選定の背景

- ◆複合審査にしたいがどうすれば良いのか？
- ◆統合マネジメントシステムを構築したいが？
- ◆統合するとメリットはあるのか？
- ◆システムの統合は具体的にどうするのか？

組織の方々の
多くの悩み,
多くの要望



「機関の考え方」・
「関連情報」を提供し、
ご要望に応える

はじめに

複合審査 : 複数のマネジメントシステム規格の
審査を同時期に行う審査

ケース	組織のMSのイメージ	審査
I	マニュアルは二つ	通常 of 連続審査 (審査員移動費用低減)
II	マニュアルは二つ (含, 一部統合)	審査イベントの一部合同実施 (OM, CM, TOPインタビュー, 他) (審査員移動費用低減) (若干の審査工数低減)
III	「統合マネジメントシステム」 一つのマニュアル & 要員は複数規格に同時対応	両規格の審査を同時進行 (審査員移動費用低減) (一定の審査工数低減)



ご説明の内容

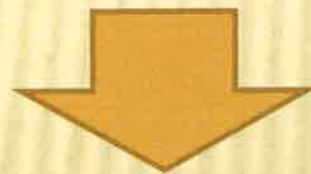
1. 企業のMSとは
2. 統合MSとは
3. 統合MSのメリットとデメリット
4. 統合MS構築のポイント
5. 関連規格の状況

1. 企業のMS (マネジメントシステム) とは？

①

良く聞かれるフレーズ

- × 「MSとは本来一つのものである」：JAB他
- × 一つの組織には一つの総合的な経営システムが存在するのが基本である。
- × 本来，経営組織のマネジメント（経営）システムは一つであるのが原則である。

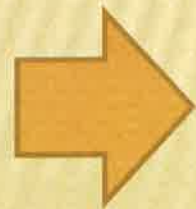


MSは一つにしなければならない？

②

1. 企業のMSとは？

- × 企業の「一つのMS」 = 「事業MS」
事業方針／経営課題抽出／事業目標・計画／組織編制／
教育訓練／生産活動／業務管理／経営監査／役員会議
- × 個別機能とMS（後ろに「管理」が付く業務）
人事／労務／財務／調達／購買／顧客／営業／販売／
原価／設計／開発／研究／品質／工程／安全／環境／
エネルギー／情報／コンプライアンス／リスク・・・



一つのシステムに統合することは大変
（手順化・文書化・有機的結合）

1. 企業のMSとは？

＜一方の現実 —MS規格の複数導入—＞

- ・ 同じようなMS要素を別々に運用。
- ・ 日常作業には品質と環境の両方が織込まれている。
- ・ システム維持の管理工数が導入規格数に応じて増える。
- ・ 実施テーマは、品質・環境の両方に関連するものも多い。



◆効率UPの余地あり

◆活動レベルを高められる可能性あり

現実的対応としての「統合MS」

2. 統合MSとは

複数のMS規格の要求事項を全て包含して構築運用されているマネジメントシステム

統合MSの一般的条件（審査を前提）

- ・ 管理責任者が一人である（機能を集約）
- ・ 事務局が複数のMSに精通
- ・ 各部署の責任者が複数のMSに対応している
- ・ 適用範囲が基本的に同一
- ・ MSの要素のかなりの部分が同一の仕組みである（マニュアルが原則的に一本化されている）



3. 統合MSのメリット・デメリット

運用できた場合のメリット

- ・ 効率化（要員数・活動工数）
- ・ スリム化による負担軽減（活動工数。審査費用）
- ・ スリム化による活動の精度向上
- ・ 集約化による活動の強化
- ・ 経営的課題，あるいは総合的課題に取り組み易くなり，より大きな成果が期待できる。

統合化のデメリット

- ・ 統合システム構築のための負担（工数・能力）
- ・ 責任者&要員の力量の確保

4. E&Q 統合MS構築のポイント

共通化が比較的容易な要求事項

EMS		QMS	
4.1	一般要求事項	4.1	一般要求事項
4.2	環境方針	5.1	経営者のコミットメント
		5.3	品質方針
4.3.3	目的, 目標及び実施計画	5.4.1	品質目標
		5.4.2	品質マネジメントシステムの計画
4.4.1	資源, 役割, 責任及び権限	5.5.1	責任及び権限
		5.5.2	管理責任者
		6.1	資源の提供
4.4.2	力量, 教育訓練及び自覚	6.2	人的資源
4.4.3	コミュニケーション	5.5.3	内部コミュニケーション
4.4.4	文書類	4.2.1	(文書化) 一般
		4.2.2	品質マニュアル
4.4.5	文書管理	4.2.3	文書管理
4.4.6	運用管理	6.3	インフラストラクチャー
		7.5.1	製造及びサービス提供の管理
4.5.1	監視及び測定	7.6	監視機器及び測定機器の管理
		8.2.1	顧客満足(監視)
		8.2.3	プロセスの監視及び測定
		8.2.4	製品の監視及び測定
4.5.3	不適合並びに是正処置及び予防処置	8.5.2	是正処置
		8.5.3	予防処置
4.5.4	記録の管理	4.2.4	記録の管理
4.5.5	内部監査	8.2.2	内部監査
4.6	マネジメントレビュー	5.6	マネジメントレビュー
		8.1	(改善) 一般
		8.5.1	継続的改善

4. E&Q 統合MS構築のポイント

②

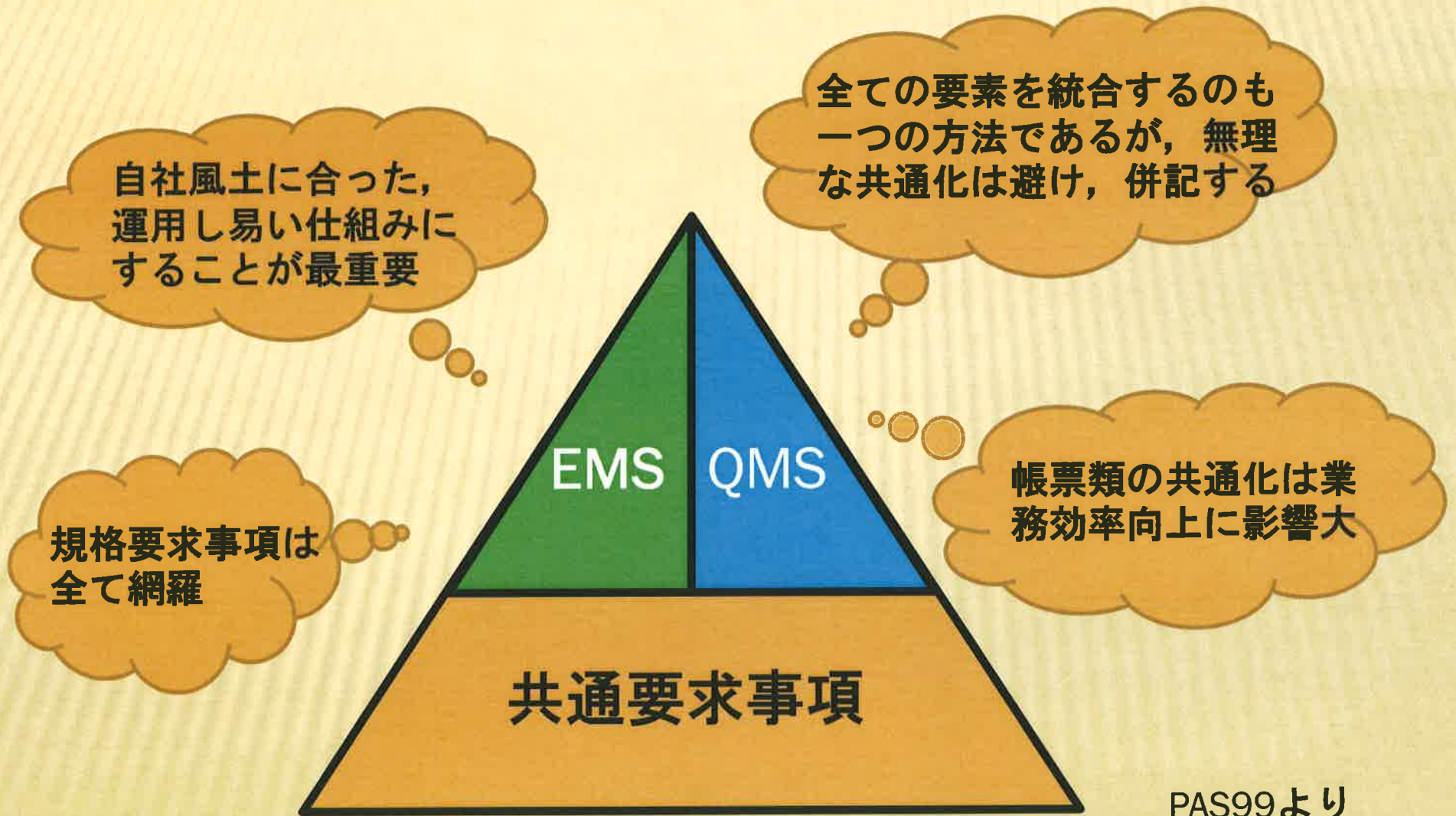
個別に規定する方が良いと思われる要求事項

EMS	
4.3.1	環境側面
4.3.2	法的及びその他の要求事項
4.4.7	緊急事態への準備及び対応
4.5.2	順守評価

注) EMSの順守評価をQMS領域まで拡大する, あるいはQMSのデータ分析をEMS領域まで拡大することはシステムを強化することになると考える。

QMS	
5.2	顧客重視
6.4	作業環境
7.1	製品実現の計画
7.2	顧客関連のプロセス
7.3	設計・開発
7.4	購買
7.5.2	製造及びサービス提供に関するプロセスの妥当性確認
7.5.3	識別及びトレーサビリティ
7.5.4	顧客の所有物
7.5.5	製品の保存
8.3	不適合製品の管理
8.4	データの分析

4. E&Q 統合MS構築のポイント



PAS99より

4. E&Q 統合MS構築のポイント

- ◆自社内で確実に動くシステムとすることが最優先。
- ◆全ての規格要求事項を織込む必要あり。
但し，上記と両立させる。
- ◆実施計画でのテーマ選定は，環境，品質という，狭い視点ではなく，企業として資源を投入し達成すべき課題を選定する。⇒有効な活動に繋がる。
この場合，「テーマ」と環境・品質との関連性を具体的に把握しておくことが必要（多面的視点）。

例) A製品の不良率改善による収益の改善

効果額目標：1000万円

(不良率：現状1%⇒0.5%)

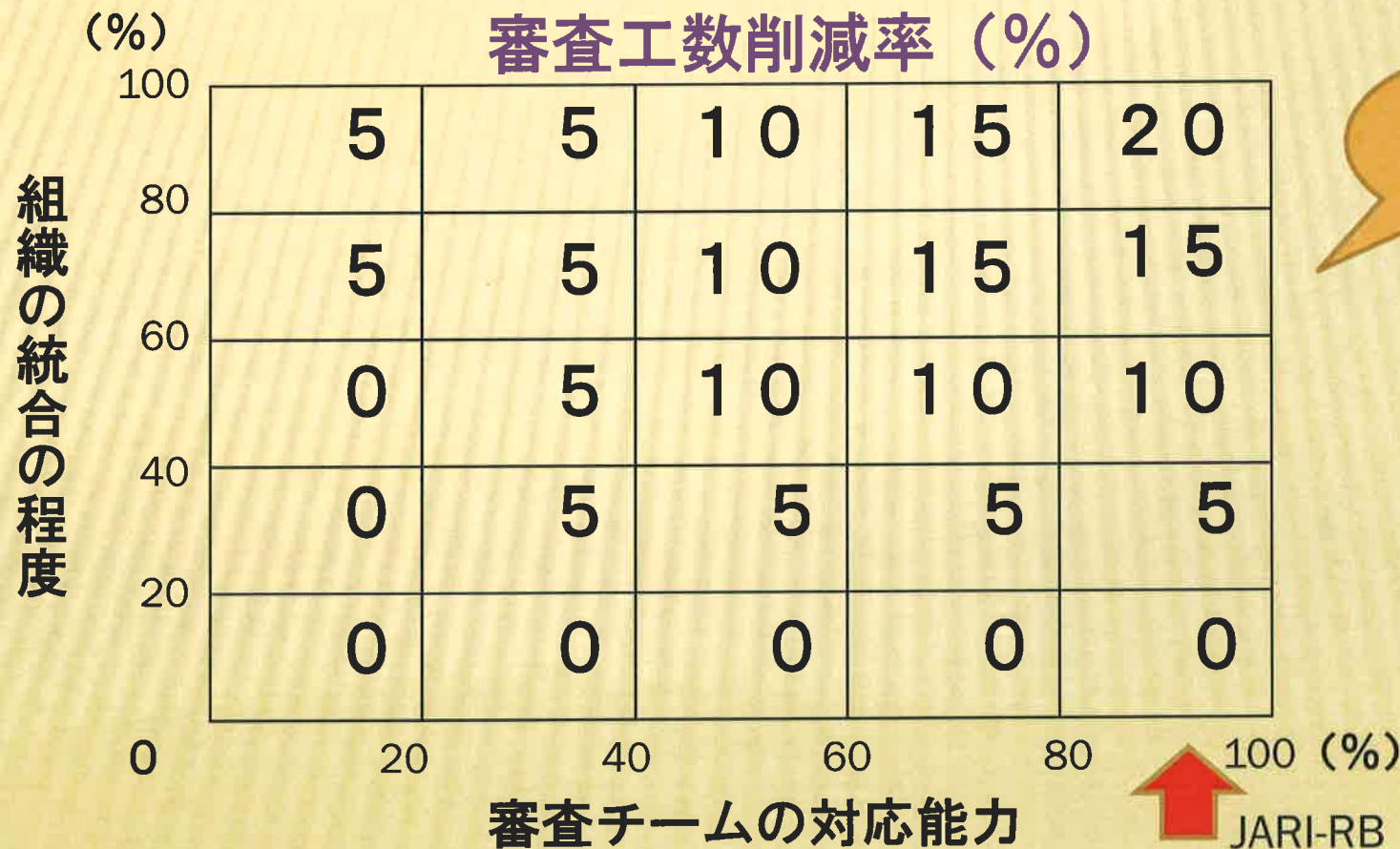
(廃棄物：500kg/月⇒250kg/月)

(原材料投入量：400kg/月の削減)

5. 関連規格の状況

“IAF Mandatory Document for the Application of ISO/IEC 17021 for Audits of Combined and Integrated Management System”

「複合・統合マネジメントシステムの審査にISO17021を適用するためのIAF強制文書」より



現状の案

5. 関連規格の状況

②

JTCG(Joint Technical Coordination Group) (ISO DGUIDE 83)
 “Final draft High-Level Structure and identical text for MSS and common MS terms and core definitions”

各種のマネジメントシステム規格の骨格と一部の文案を共通使用する動き

—参考— 下記が新要求事項の項目（本文省略）。今後，共通使用される。

序文	(タイトルのみ)
1. 適用範囲	(タイトルのみ)
2. 引用規格	(タイトルのみ)
3. 用語と定義	(タイトルのみ)
4. 組織の状況	4.1 組織とその状況の理解 4.2 利害関係者のニーズと期待の理解 4.3 マネジメントシステムの適用範囲の決定 4.4 ○○○マネジメントシステム



続き	
-----------	--

5. リーダーシップ	5.1 一般 5.2 マネジメントコミットメント 5.3 方針 5.4 組織上の役割, 責任, 及び権限
6. 計画	6.1 リスクと機会を検討するための活動 6.2 ○○○目的を達成するための計画
7. 支援	7.1 資源 7.2 力量 7.3 自覚 7.4 コミュニケーション 7.5 文書化された情報 7.5.1 一般 7.5.2 作成と最新化 7.5.3 文書化された情報の管理
8. 運用	8.1 運用の計画と管理
9. パフォーマンス評価	9.1 監視, 測定, 分析, 及び評価 9.2 内部監査 9.3 マネジメントレビュー
10. 改善	10.1 不適合と是正処置 10.2 継続的改善

ご清聴ありがとうございます